

タヒチヌイトラベル発

2015年4月17日発信

イアオラナ！現地旅行社タヒチヌイトラベルが発信する、タヒチのプチ情報です。



4月後半を迎え、少しずつ夜風の涼しくなる季節となりました。

今回は、夕刻に花を咲かせ朝に散る、めずらしい植物の紹介。日本ではその果実の形から「ゴバンノアシ（碁盤の脚）」と呼ばれ、タヒチでは「HOTU ホトゥ」と呼ばれています。なんとこれが昔は漁をする時に使われたそうです。

英語で「ポイズン・フィッシュ」と呼ばれ、果実には魚毒性があります。実を細かく砕いて団子状にし、海中のサンゴや岩の下に置いておくと、周りの魚が気絶しプカプカ浮いてくるそうです。現在ポリネシアではこの漁法は魚を保護するため禁止されています。そして観賞用として育てられるこの植物は、絶滅危惧種になっています。日本ではめったに見ることの出来ない、いろんな植物がポリネシアには沢山あります。「人間の生活に実用性ある物」が先人によって持ち運び込まれたという事ですが、この HOTU もそのひとつなのでしょう。

